

The289th Programming Deliberation Committee

第289回番組審議会 議事録

開催日 2025年6月17日（火）

出席者：角田陽一郎委員、長崎亘宏委員、安藤美冬委員、望月理恵委員

議題（審議番組）：

『Beyond K-point』

放送日時：2025年5月12日(月)5:10-6:00

DJ：田中溪

## 会社からの説明

本番組『Beyond K-point』は、毎週月曜日5時10分からの50分番組で、2025年4月にスタートしました。パーソナリティはゴールドマン・サックス証券株式会社に17年間勤務した経歴を持ち、ダルトン・インベストメンツによるフジ・メディア・ホールディングスへの株主提案という形で推薦する12人の取締役候補の1人、田中溪氏です。

「ラジオDJになる」という夢を抱き続けていた田中氏が、自らの発案と資金により実現させたトーク&ミュージックプログラムで、月曜日の朝に「良い音楽と出会え、何かためになり、背中を押してもらえる番組」を目指し、試行錯誤を重ねながら番組制作に取り組んでいます。

## 委員からの意見・感想

### 審議委員A

番組としては音楽とトピックスのあるトークで構成されていて、きちんと成立していると感じる。ただ、リスナーとして聴きたいか？といわれると、そうは思わなかった。まず田中溪さんをよく知らない。よく知らないパーソナリティから「生きるためのポイント」を明示されても響くものがなかった。リスナーとの2WAYで交流する時間帯もあり、番組構成としては間違っていないが、最初にした思いは消えなかった。番組中盤に田中さんの朝のルーティンのひとつである自転車に関するトークがあったが、そこは面白く興味深く聴くことができた。番組後半で音楽の一ジャンルである「レゲエ」について解説をする箇所があったが、解説は音楽評論家に任せ、田中さんには楽曲やアーティストに対する想いやエピソードを語ってもらい、そこから垣間見られる田中さんの人となりを伝えた方が良いのではないかと感じた。番組としては丁寧に作られているとは感じるが、リスナー目線を忘れないで欲しい。

### 審議委員B

朝の5時台に相応しい選曲と田中溪さんのトークを楽しんで聴くことができた。田中さんのことは動画サイトなどから存じ上げていた。田中さんの経歴が立派過ぎて、「新しい一歩を踏み出す勇気を後押しする」と言われても、苦しく感じる場合もあるのではないかと感じた。自らに置き換えると、まだ軸が定まっていない20代にこの番組を聴いたとしたら、田中さんのことを信奉するか、自らの能力に限界を感じ、心が折れてしまったかもしれない。田中さんの人となりが伝わるようなエピソードが番組内の随所に挿入されると、安心して聴くことができるような気がした。

先を見通すことができない時代で、このような強い信念や経歴、コトバの力を持っている人たちは、多くの方々の支えになるだろうが、先ほどお伝えしたような、もやもやとした違和感を覚えたのも事実だ。数字から見える力だけではなく、ラジオならではの心や感情の動き、人との繋がりや温度感を大切にしていきたい。色々申し上げたが、総じて番組は丁寧に作られていて、音楽も素晴らしかった。

#### 審議委員 C

どんな番組でもオープニングはワクワクしたいので、番組開始すぐのプログラムの紹介時、もう一声、興味が湧く言葉が欲しかった。田中溪さんの経歴を活かした深い視点のお話、腑に落ちることが多く勉強になった。音楽にも造詣が深いことを伺うことのできる内容だったが、全体的に勉強しているようで尺が長く感じた。一方で毎日聴くことを習慣にしたい番組でもあると感じたので、週に1回の50分番組より、毎日10分くらいの帯番組の方が良いのではないかと思った。トーク内容は落ち着いた声のトーンで、理路整然とされ過ぎていたためか、田中さんの人となりを感じられず、より自然な田中さんが出るともっとリスナーやファンが増えるのではないかと思った。ラジオは3分間の中に「情報」「共感」「笑い」があると良いと教わってきたので、「共感」と「笑い」が無かったということは、バランスが良いとは言えないのかもしれない。

#### 審議委員 D

田中溪さんは「時の人」でもある。個人的にはこうした旬の人を起用することが好きだ。田中さんはアイコンックで声も良い、仕事と趣味の賢者のようなイメージだ。しかし、一瞬の興味、関心を引くだけで、どういった人なのか分からず終わってしまわないか危惧している。番組が始まっておよそ1クール、パーソナリティとしての確立を急いだ方が良いだろう。ビジネスパーソンの背中を一押しというのが番組コンセプトのひとつであるが、今はそのように感じないので、少し時間をかけてそうなることを願っている。番組には3つの要素があったと感じている。一つ目は一線級アナリストの視点による時事の解説。2つ目は趣味の達人の視点によるガジェットやスポーツなどのうんちく話。3つ目はコーナー「Kei's Go-to Song」に代表される楽曲の解説。その中で圧倒的に1つ目が輝いていて、説得力があった。楽曲の解説については、田中さんの音楽知識をもってしてもハードルが高いのかもしれない。今後、この3つのバランスがどうなるのか期待したい。また、現在のSNSのフォロワーが3万人台だが、5万人、10万人としていくためにも番組としてもう一皮むけて欲しい。番組のエンディングでその日の放送内容を振り返っていたが、リスナーに考えるきっかけを作る時間にしたい方がよいのではないか。

#### 一会社側の回答

番組に対する評価、改善・要望などの意見を真摯に受け止め、より質の高い音楽番組の制作に向け改善を図る。

以上